

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24590599

研究課題名(和文) 卒後臨床現場における卒前のチーム医療教育(卒前IPE)の効果の検証

研究課題名(英文) The effect of the pre-qualified IPE for human resource of health in clinical settings.

研究代表者

篠崎 博光 (SHINOZAKI, Hiromitsu)

群馬大学・保健学研究科・教授

研究者番号：30334139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：専門職ライセンス取得前多職種連携教育(卒前IPE)の効果を検証するため、修正版チーム医療に対する態度尺度(修正版ATHCTS)を用いて縦断的・反復横断調査を行った。3年次の実習形式後の学生のチーム医療に対する態度尺度が高値となり、卒前IPEが学生のチーム医療に対する態度が改善することが示された。さらに卒業生を対象とした研究では、在学中に卒前IPEにより獲得したチーム医療に対する態度低下が卒業後起こる可能性が示された。このため卒前IPEと卒後IPEの切れ目のない多職種連携教育が必要であることが示された。

研究成果の概要(英文)：To investigate whether alumni who have studied in an IPE program at a pre-licensure stage maintain a positive attitude toward collaborative practice in the postgraduate clinical experience, we conducted a cross-sectional study comparing undergraduate students and alumni, who both studied in same pre-qualified IPE program, and analyzed their attitudes towards interprofessional healthcare teams. The overall mean score of alumni on the mATHCTS was significantly lower than that of undergraduate students on the mATHCTS. This finding suggests that the acquired positive attitude by pre-qualified IPE may be reduced in the postgraduate clinical experience. In-service IPE may be important in order to maintain the positive attitude during postgraduate clinical experience.

研究分野：医療社会学

キーワード：多職種連携教育 チーム医療教育 チームワーク教育 IPE 態度尺度

1. 研究開始当初の背景

超高齢化社会を迎えた我が国では、病院から施設へ、さらに医療は福祉と連続して地域において行われることが重要となり、「医師、病気中心」から「患者、問題中心」に保健医療福祉のパラダイムシフトが起こっている。このパラダイムシフトに対して、適切な保健医療人材の育成はきわめて重要であり、多職種連携教育 (IPE) が本邦でも積極的に導入された。IPE は専門職ライセンス取得前の主に教育現場で行われる卒前 IPE と、専門職ライセンス取得後に臨床現場で行われる卒後 IPE とがある。教育現場における卒前 IPE については、本邦で先進的に取り組んできた大学の成果として報告されている (Watanabe & Koizumi, Springer, 2010)。卒前 IPE の有用性に関する検証に関しては、国内海外の施設で検討されてきており、また本学からも学生の卒前 IPE に対する態度の変化には専攻別に違いがあること (牧野ら, 保健医療福祉連携, 2010)、さらに本学の 10 年間におよぶ卒前 IPE の蓄積を本学独自に作成した「チームワーク実習学習到達度・自己評価」アンケートを用いて検討し、理解・到達度に専攻別の違いがあることを報告 (Ogawara et al. Hum Resour Health, 2009) してきた。しかし、これまでの研究は横断研究による調査が主なものであり、縦断研究による検証が必要である。

さらに、卒前 IPE の卒後臨床現場における有用性を検討した研究は少なく、本邦における卒前 IPE が卒後の臨床現場での保健医療人に対する効果について検証することが急務である。本研究では卒前 IPE を受けた卒業生の教育効果がどのように維持されるかを検討することで卒前 IPE の臨床現場での保健医療人に対する効果について検証する。

2. 研究の目的

- (1) 縦断研究による卒前 IPE の効果に関する検証
- (2) 卒前 IPE の臨床現場での保健医療人に対する効果の検証

3. 研究の方法

- (1) 縦断的・反復横断調査による卒前 IPE の効果に関する検証

本学の IPE は 1 年次には講義形式で行われ、3 年次には実習形式で行っている。修正版チーム医療に対する態度尺度 (修正版 ATHCTS) を用いて多職種医療チームに対する態度変化について縦断的・反復横断調査を行った。

- (2) 卒前 IPE の臨床現場での保健医療人に対する効果の検証

本学のチーム医療教育を履修した 2008-2010 年度の第 3 年次在学学生ならびに在学中に本学でのチーム医療教育を受けた 2000 年から 2008 年に卒業した本学の卒業生 (新卒から卒業 9 年目にあたる) に対して修正版 ATHCTS

を用いて検討を行った。

4. 研究成果

- (1) 縦断的・反復横断調査による卒前 IPE の効果に関する検証

2008 年度の一年生 193 名ならびに 2010 年度の 3 年生 185 名に対する、修正版 ATHCTS の合計点は 1 年次の終了時、3 年次の開始前のスコアと比べ、3 年次の終了後のスコアは統計的に有意に高値であり、多職種連携教育の効果が示唆された。

		合計得点
1 年	講義形式前	3.85 ± 0.39
1 年	講義形式後	3.77 ± 0.36
3 年	実習形式前	3.74 ± 0.35
3 年	実習形式後	3.95 ± 0.40

} }
P < 0.05

- (2) 卒前 IPE の臨床現場での保健医療人に対する効果の検証

学部学生 501 名ならびに卒業生 213 名による修正版 ATHCTS の因子分析では「チームの効果」、「チームケアの質」、「チームの効率」を表す 3 つのサブスケールが構成された。卒業生全体の平均値 (3.88 ± 0.403) は、学部生全体の平均値 (4.01 ± 0.384) より有意に低値であり、さらに「チームの効果」における回帰係数スコアは、学部生より卒業生の方が有意に低値であった。以上より資格取得前 IPE により獲得した医療チームに対する態度の低下が卒業後起こる可能性を示し、資格取得前 IPE と卒後 IPE の切れ目のない多職種連携教育の必要性を示唆した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 4 件)

Kururi N, Makino T, Kazama H, Tokita Y, Matsui H, Lee B, Kanaizumi S, Abe Y, Uchida Y, Asakawa Y, Shinozaki H, Tozato F, Watanabe H. Repeated cross-sectional study of the longitudinal changes in attitudes toward interprofessional health care teams amongst undergraduate students. J Interprof Care., 査読あり, 28(4): 285-291, 2014.
DOI: 10.3109/13561820.2014.891977.

時田佳治、金泉志保美、齋藤貴之、牧野孝俊、松井弘樹、久留利菜菜、李範爽、安部由美子、浅川康吉、外里富佐江、篠崎博光、渡邊秀臣、群馬大学 IPE トレーニングコースの紹介、保健医療福祉連携、査読なし、7(2): 126-130、2014.

Makino T, Shinozaki H, Hayashi K, Lee B, Matsui H, Kururi N, Kazama H, Ogawara H, Tozato F, Iwasaki K, Asakawa Y, Abe Y, Uchida Y, Kanaizumi

S, Sakou K, Watanabe H. Attitudes toward interprofessional healthcare teams: a comparison between undergraduate students and alumni. J Interprof Care., 査読あり, 27(3): 261-268, 2013.
DOI:10.3109/13561820.2012.751901.

外里富佐江、時田佳治、安部由美子、金泉志保美、内田陽子、浅川康吉、牧野孝俊、松井弘樹、久留利菜菜、李範爽、齋藤貴之、篠崎博光、渡邊秀臣、医療・福祉系大学における多職種連携・チーム医療教育の現在と未来、保健医療福祉連携、査読なし、6(1-2): 38-40、2013.

[学会発表](計12件)

Shinozaki H. Symposium-Evaluation of pre-qualification interprofessional education. The 3rd International Nursing Conference. (招待講演) 2014年10月10日, Ulaanbaatar (Mongolia)

久留利菜菜、牧野孝俊、時田佳治、松井弘樹、李範爽、金泉志保美、内田陽子、安部由美子、齋藤貴之、篠崎博光、外里富佐江、渡邊秀臣、群馬大学のチーム医療教育による学部学生の多職種医療チームに対する態度(姿勢)の変化についての縦断的・反復横断調査、第7回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会、2014年9月21日、新潟

松井弘樹、李範爽、牧野孝俊、時田佳治、久留利菜菜、金泉志保美、安部由美子、篠崎博光、渡邊秀臣、チーム医療教育の質的・量的効果、妥当性に関するシステムティックレビュー、第7回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会、2014年9月21日、新潟

牧野孝俊、李範爽、松井弘樹、時田佳治、久留利菜菜、金泉志保美、浅川康吉、齋藤貴之、安部由美子、篠崎博光、外里富佐江、渡邊秀臣、学部学生と卒業生に対する多職種医療チームの態度、第7回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会、2014年9月21日、新潟

松井弘樹、李範爽、牧野孝俊、時田佳治、久留利菜菜、金泉志保美、安部由美子、篠崎博光、渡邊秀臣、チーム医療教育の質的・量的効果、妥当性に関するシステムティックレビュー、第6回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会、2013年10月27日、仙台

篠崎博光、群馬大学における多職種連携教育(チーム医療教育)(特別講演)、北

関東医学会、2013年9月27日、前橋、群馬。

Makino T, Shinozaki H, Hayashi K, Lee B, Matsui H, Kururi N, Kazama H, Tokita Y, Ogawara H, Tozato F, Iwasaki K, Asakawa Y, Abe Y, Uchida Y, Yanagi N, Watanabe H. Cross-sectional study on attitudes toward interprofessional health care teams between undergraduate students and the alumni. All Together Better Health VI. 2012年10月7日, Kobe (Japan)

Makino T, Kee B, Matsui H, Tokiwa Y, Kazama H, Shinozaki H, Tozato F, Iwasaki K, Asakawa Y, Abe Y, Uchida Y, Kanaizumi S, Sakou K, Yasukawa T, Watanabe H. JIPWEN initiative. All Together Better Health VI. 2012年10月7日, Kobe (Japan)

Isoe N, Ohashi N, Suzuki H, Suzuki S, Morita M, Nakamura R, Matsuda M, Tokita Y, Kazama H, Ushida Y, Abe Y, Kondo T, Asakawa Y, Iwasaki K, Shinozaki H, Tozato F, Watanabe H. Practice of Simulated Interprofessional Training for Student among the Various Health Professions at Gunma University. All Together Better Health VI. 2012年10月7日, Kobe (Japan)

Tozato F, Watanabe H, Kazama H, Lee B, Kururi N, Makino T, Tokita Y, Iwasaki K, Asakawa Y, Ogawara H, Matui H, Abe Y, Kanaizumi S, Uchida Y, Shinozaki H. Professional-identity acquisition process model in interprofessional education using Structural Equation Modeling: Ten years initiative survey at Gunma University. All Together Better Health VI. 2012年10月6日 Kobe (Japan)

Makino T, Hayashi T, Imura K, Shinozaki H, Ogawara H, Asakawa Y, Iwasaki K, Matsuda M, Abe Y, Tozato F, Koizumi M, Yasukawa T, Lee B, Hayashi K, Hayashi A, Watanabe H. Changes in attitude toward interprofessional education in the first and third year undergraduate students. All Together Better Health VI. 2012年10月6日 Kobe (Japan)

Shinozaki H, Makino T, Kanaizumi S, Tsujimura H, Uchida Y, Tokita Y, Matsui H, Abe Y, Kazama H, Kururi N,

Asakawa Y, Lee B, Iwasaki K, Tozato F,
Sakamoto M, Watanabe H.
Interprofessional Education
implemented at Gunma University
Evaluation of the IPE curriculum
through measuring changes in
attitudes toward Interprofessional
Health Care Teams and Education. 2nd
International Scientific Conference
(招待講演) 2012年05月11日,
Ulaanbaatar (Mongolia)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

篠崎 博光 (SHINOZAKI, Hiromitsu)
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究番号：30334139

(2) 研究分担者

渡邊 秀臣 (WATANABE, Hideomi)
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究番号：4023174

牧野 孝俊 (MAKINO, Takatoshi)
群馬大学・大学院保健学研究科・講師
研究番号：50389756

李 範爽 (LEE, Bumsuk)
群馬大学・大学院保健学研究科・准教授
研究番号：50455953